

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4570500233		
法人名	社会福祉法人 ときわ会		
事業所名	グループホームひなもり	ユニット名	蛸町
所在地	宮崎県小林市堤4380番地		
自己評価作成日	令和2年11月1日	評価結果市町村受理日	令和3年2月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action_kouhyou_pref_search_list_list=true

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	令和2年12月3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①季節の食べ物でのお菓子作りや焼き芋など、美味しく楽しめる行事を行っている。季節の野菜作りや花植えなど水やり、草取りをすることで季節感を感じてもらい、収穫した野菜を料理することで昔の思い出を引き出せるようにしている。②少人数での外出で、買い物や果物狩りなどゆっくりと散策してもらえるような環境にし、併設している事業所との合同外出も行き、グループホーム以外の入居者の方々との交流ができるようにしている。③家族との交流ができるように、家族を招いた食事を開催している。家族同士の交流もできており好評である。④墓参りや自宅に帰りたい方の要望に応じて、公用車での外出を行い精神安定を図れるようにしており家族の理解も得られている。⑤認知症の家族を介護しておられるかたや、介護についての相談も気軽に受け付けており、親身になり話を傾聴し、その方

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

敷地内に特別養護老人ホームや有料老人ホームが併設し、総合防災訓練や外出支援など協力体制づくりに取り組んでいる。法人内で独自の排せつマイスターを任命し、排せつの自立に向けた支援を行っている。また、各ユニットの職員の異動があり、各ユニットの利用者の記録を共有し、ケアに取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	蛍町ユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念、介護理念を職員がすぐに確認できる所に掲示している。毎日朝礼で復唱し、理念の再確認を実践しています。理念に基づいたサービスを実践できるように振り返り等の確認を行っている。		朝礼や定例会で理念について話し合い、共有に努め、実践できるよう取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	買い物ツアーや家族が集まって食事会等に地域交流を行っていた。現在、コロナ禍にて、施設外の外出、地域交流が困難で施設での夏祭り、敬老会等はグループホーム内だけの規模縮小して実施している。		地域の保育園児が窓越しに訪問し手を振ったり、地域のお店で知人と交流するなど、地域とつながりながら暮らし続けられるよう取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護実習生、ボランティア、職場体験の方を受け入れを行っている。実習や体験を通じて、認知症を理解してもらえよう分かりやすく説明を行っている。個人情報保護、混乱しない様に配慮を行っている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で事業所での取り組みを報告、意見交換を行い、サービス向上、改善に取り組んでいる。3月より、コロナ感染予防にて運営推進会議が中止、11月頃に再開予定。		運営推進会議の参加者から意見や要望があり、それらをサービスの向上に生かすよう取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議にて活動内容を報告している。行政担当者へ困った時など相談し、訪問の際、情報交換を行っている。3月より、コロナ感染予防にて運営推進会議が中止、11月頃に再開予定。		市の担当者が見学に来たり、市に訪問して広報誌を届けるなど、協力関係の構築に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ケア向上委員会を中心に「身体拘束」に対する意識把握をアンケート式の研修等にて取り組んでいる。ケアマネジャーでも県西ブロック研修会にて「身体拘束」をテーマにした研修に参加、定例会議にて伝達を行い、身体拘束をしないケアをと取り組んでいる。		毎月ケア会議を開催し、身体拘束廃止の話し合いを行っている。定例会では、勉強会を行ったり、外部研修に参加した職員は、復命研修を行い身体拘束をしない取組を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的・心理的な虐待防止の為、定例会議等にて施設内研修を行い、虐待防止の意識を持ってもらう様に取り組んでいる。またケア向上委員会のアンケートを実施し、意識をもってケアができるように取り組んでいる。			

自己	外部	項目	自己評価	蛍町ユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	安心サポートや成年後見人制度は家族の要望で利用している。後見人と連携を図り、職員にも周知、理解してもらっている。どのような制度なのか理解してもらう為に勉強会を通じ知識を活用できる様にしている			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、家族には契約内容をしっかりと理解してもらえるように分かりやすく説明を行っている。不安や疑問点が家族よりあれば、繰り返し説明をすることで家族に不利益が無い状態で署名や捺印をもらっている			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に要望や意見を聞けるように声を掛け尋ねる様にしている。またご家族へアンケートを送付し意見を反映し返答を返している。玄関先にスマイルボックスを設置し総務委員会で集計後各事業所に結果を報告し運営に反映させている。		玄関にスマイルボックスを設置している。また、家族の面会時には、意見等聞かすが、感謝の言葉が多く、意見等はほとんど無い。家族の意見等を引き出す工夫が必要である。	家族は、直接、職員には言いにくいこともあるので、家族だけの話合いの場を設けるなど、意見等を引き出す取組に期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝礼時や定例会議、面談で各職員の意見を聞き話し合いを行っている。また、昼食時などリラックしている際の普段の会話の中からも意見や提案を聞き、反映出来る様心掛けている。		職員の面談は、マネジャーが年1回から2回意見等を聞いている。職員から直接意見等は、主任から管理者、施設長、理事長に上がり運営に反映させるよう取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	上肢と連携を図り、働きやすい職場環境づくりに努めている。ストレスチェックの実施にて精神的不調を早期に発見、環境改善を図るように勤められている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修、自己啓発の参加機会が設けられている。定例会議にて報告会や勉強会を行っている。各職員が介護に関する書籍を持ち寄り、事務所に自由に読めるように設置している。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県西ブロック研修会や地域密着型サービス事業所連絡会へ参加し、他事業所との意見交換で良いところは取り入れサービスの向上に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	蛍町ユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に事前調査を行い、本人、家族と面談し本人の様子を見ながら不安や要望・意向を聞き取り、安心して入居が出来るように努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思いや要望・意向を伺い、見学に来て意見を確認して暮らせるように、要望を言いやすい関係作りに努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設管理者、ケアマネジャーとの連携を図り、本人が必要ととしている支援は何かを考え、インフォーマルサービス等の他のサービスを含めた対応へ繋げられるよう努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物たたみや、お盆拭き等を職員と一緒にして頂くことで、出来る事の喜びを共有できるように心掛けている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	例年は家族の方と一緒に楽しめる食事会や夏祭り、敬老会等の行事計画を行い、本人と家族が楽しく過ごし絆を深めることが出来るように努めている。今年は、コロナ感染拡大防止の為、家族の方が参加できる夏祭り、敬老会は中止となった。毎月、家族へグループホーム			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	例年は面会時はゆっくりと会話出来るよう、居室で面会をして頂いており、家族へ外出、外泊の協力を依頼し家族と過ごす時間が出来るように支援を行っている。現在、コロナ感染予防の為、面会等制限があり、感染委員会にて面会、外出等の制限、解禁等の判断を感染状	馴染みの場所に行った時は、写真を撮り利用者が確認出来るようにホールに貼ったり、敷地内の温泉に知人が来た際は声掛けするなど、関係継続の支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間で楽しく会話出来るように、テーブルごとに職員が行き、話題を提供したり、レクリエーションを行ったり、一人ひとりに寄り添った支援をしている。利用者間でのトラブルが発生しない様に様子観察を行い、予兆が見られた時には職員にて仲介し、未然にトラブルが起き			

自己	外部	項目	自己評価	蛍町ユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者一人ひとりの性格や生活習慣を把握し、利用者間で円滑に交流ができるような話題を提供したり、レクリエーションや行事、普段の食事などで会話が出来るように座席を配置して利用者間での良好な関係が保てるように支援している。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃から利用者と会話し、希望や意向を伺いそれを職員間で話し合い、利用者に沿った対応が出来る様に検討、対応している。	家族から聞いたことや利用者の生活の中で思いや意向について、気付いたことを「気付きノート」に記録し職員間で共有し、意向の把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族より入所前に情報を聞き、生活していく中での日々の会話で把握している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の経過記録やチェック表、月評価を活用し、一人一人の状態把握に努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向を聞き、それに合わせて職員間で話し合い、本人の今の状態に合わせた、介護計画を立てている。	定期的見直しは、3か月、モニタリングは毎月行っている。家族からは面会時に意見を聞き、ケア会議で職員から意見を聞き、現状に即した介護計画書を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状態や生活の様子は、毎日記録し、気づき等職員間で情報提供している。申し送りノートにも記入し、見直しをしながらケアの向上を図っている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族のニーズに応じて、病院受診等、柔軟に対応できるように取り組んでいる。			

自己	外部	項目	自己評価	蛍町ユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者の中でご家族からの希望で傾聴ボランティアに来ていた。(現在、傾聴ボランティアの仕事が忙しい為、休止中)又、近郊の高校、中学生のボランティア来て頂いていた。運営推進会議等で地域の方々の協力も頂いていた。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設近郊の医療機関をかかりつけ医として定期受診、異常時の対応を行っている。又、専門医への受診が必要な際は、紹介状を依頼し、受診を行っている。	本人、家族の希望するかかりつけ医になっている。受診は、看護師が付添い、家族に受診の報告をするなど適切な医療を受けられるよう支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々、状態観察を行い毎朝バイタルチェックを行っている。異常時は事業所看護師や看護師にて主治医と連携をとり安心感のある生活を送ってもらえるよう支援している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は定期的に職員が面会を行い、状態等の情報共有を職員間で行っている。管理者やケアマネジャーにて病院関係者との情報交換を行い、関係づくりに努めている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者本人、ご家族の意向を入所時に聞き取りを行いその後の変更等ないか日頃より聞き取りし家族へ十分に説明し理解・共有してもらう事で重度化・終末期の支援について医療と連携を図りながら対応できる体制を整えている。	看取りの勉強会は、体験した職員が講師となり資料など準備し行っている。重度化に伴い意志確認書があり、医師、家族、職員で話し合い、朝礼で報告し情報の共有を行うなど、ケアに取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に適切な対応や行動が出来る様勉強会や外部研修で緊急時の対応の練習を行い実践力をスタッフ全員が身につけて事故発生時に備えている。事業所看護師より日頃から分からない事や疑問点等は指導を仰いでいる。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を実施し、避難場所、方法を確認している。避難訓練後は総評をもとに振り返りを行い、全職員が身につける事ができるように取り組んでいる。地域防災協力隊との懇親会、避難訓練を行い地域との協力体制も築いている。	総合防災訓練は、年2回法人全体とグループホームで火災を想定した訓練を行っている。訓練には地域住民も参加し、地域との協力体制の構築に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	蛍町ユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	定例会議や朝礼で接客5大用語を復唱し全職員が正しい挨拶と返事の仕方を心掛ける様に周知している。相手の立場に立ち、一人ひとりの人格を尊重し対応行っている。	不適切な声掛けを例示したものを、事務所などに掲示し勉強会を行っている。排せつ介助の際、転倒の危険がある利用者には、職員は、背を向け声掛けを行うなど、プライバシーに配慮するよう努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの入居者の立場に立ち、その方らしく生活できるように想いをくみ取り支援している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の一人ひとりの生活リズムを把握し、職員間で情報共有し本人のペースで過ごせるように支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容室(月1回花町ロビーにて実施)に依頼し、一人ひとりの要望に合わせて、カットや髪染めやパーマなどの支援を行っている。なじみの美容室がある方はご家族の協力をもらい対応行っている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の際に味付けや味見を職員と一緒にしている。好みの味付けなどを把握するように努めている。食後も台拭きやお盆拭きを職員と一緒にしている。	菜園があり利用者と収穫した野菜を漬物にしたり、食事の準備や片づけなど、利用者の出来ることを支援し、食事が楽しみなものになるよう取り組んでいる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士にて栄養やバランスの取れた献立を準備してもらっている。食事形態は利用者一人一人に合わせて提供行っている。日々の食事や水分の摂取量の記録や月1回の体重測定実施し、個人の状態観察を行い、体調管理や異常の早期発見に努めている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1日3回、毎食後に口腔ケアを行っている。一人ひとりにあったブラシや洗口液を使用し、見守り、口腔ケア介助にて支援を行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	蛍町ユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的、トイレ訴え時にてトイレ誘導を行っている。自己にて、トイレに行かれる方は排泄時間を記入した用紙を活用し排泄パターンを把握している。長時間、トイレに行かれていない時は声掛けを行う事で排泄の失敗を減らす事で自立支援へ繋げる支援を行っている。		日中は、トイレに誘導したり、オムツの種類を検討するなど、排せつの自立に向けた支援を行っている。また、法人独自で、排泄マイスターを任命し、排せつ支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分不足から便秘に繋がる事を理解し、利用者一人一人の水分量を把握する為、水分表を活用し、一人一人の水分量状況を把握している。お茶を好まない方で水分摂取が難しい時は本人が好む飲み物(珈琲等)を提供し便秘予防を努めている。排便が長期間見られない週3回(月、水、金曜日)入浴を行い、受診や更衣が必要時以外は本人が入りたい時間を訪ねて入りたい時間で入浴を実施している。室温を脱衣場のエアコンにて調整し快適にゆっくりと入浴出来る様に努めている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	夜間、睡眠状態を確認し寝られていない時は午睡時間を作り、昼夜逆転にならないように短時間で午睡時間を提供している。日中、無理のない範囲で園内の歩行運動や塗り絵等を行い覚醒促進生活のリズムを整える事でしっかりと睡眠をとれるように対応している。夜間眠れない様子が見られる時は、話を傾聴したり、飲み物を提供し良眠できる様に支援している。		入浴は、週3回行っているが、希望があれば毎日入浴できる。季節に応じて菖蒲湯、柚子湯など行っている。入浴を拒む場合は、散歩で気分を変えたり、次の日に入浴を行うなど、個々に沿った支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間、睡眠状態を確認し寝られていない時は午睡時間を作り、昼夜逆転にならないように短時間で午睡時間を提供している。日中、無理のない範囲で園内の歩行運動や塗り絵等を行い覚醒促進生活のリズムを整える事でしっかりと睡眠をとれるように対応している。夜間眠れない様子が見られる時は、話を傾聴したり、飲み物を提供し良眠できる様に支援している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報提供書を作成し作用、副作用について不明な点は看護師に確認、しっかりと理解できるように努めている。服薬時は誤薬防止の為、氏名、日付、本人確認を二人介助にて行っている。受診時に、内服変更があった場合、ケース記録等に残し、情報共有している。体調面を観察し異常時は看護師、主治医へ連絡し指示を仰いでいる。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	体調や本人の意向、意思に沿い、色塗りや散歩、レクリエーション等を行っている。自室にて、過ごされている利用者もおり、孤独にならないようにこまめに声掛けを行いコミュニケーションを図っている。現在、感染症の為、面会が制限されており遠方に住まわれている家族とコミュニケーションを図れるようにテレビ電話を活用しながら家族と会える楽しみの支援につな			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍以前は、外出レクリエーションを企画し季節感を体験する事が出来ていた。感染症の流行もあり、外出が難しい為、施設の中庭にてプランター家庭菜園を企画し収穫を一緒に行う事で季節感を感じれる工夫をしている。		車椅子の利用者も散歩を行い、買い物やグラウンドゴルフ場に行くなど、日常的な外出支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	蛍町ユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家庭の協力を頂き、小口現金としてお金を預かり事務所にて管理している。買い物等の外出時等にて支払いは自己にて支払いが出来る様に支援している。現金を自己にて持っていたい意向のある利用者には、家族に報告の上で現金を持ってもらい安心できるように支援している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの手紙や贈り物が届いた時は、本人に手渡し、家族へ電話にて交流できるように支援している。テレビ電話の使用等にて家族とのコミュニケーションがとりやすくなる様に努めている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールにて動揺や演歌などの懐かしい歌を流し、季節の花を飾ったり、居心地のいい空間が出来るように工夫している。室温調整や天気に合わせて照明の調整、カーテン、障子を朝に開け、夕方に閉めることで昼夜を意識できるように努めている。月1回、安全衛生委員による職場巡視を行い点検を行っている。	共用空間には、季節の飾りや行事の写真を掲示したり、季節感のある中庭をつくるなど、居心地よく過ごせるよう工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ユニット廊下の畳間等の腰かけや自室居室など一人になれる空間を設けている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	安心して生活できる様に家族の写真や思い出の物を居室の目に入りやすい場所に飾っている。家族の協力を依頼し、自宅で使用していた馴染みの物を取り入れるように工夫をしている。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子を使用している利用者の方が安全に使用できるように、トイレ、浴場の脱衣場を広く拡張工事している。建物の柱にぶつけて外傷を受けやすい利用者の方の為に利用者の動線にある建物の柱にクッション材を使用する等の工夫を行っている。			